



12月の花：スイセン

# 事務所便り

令和5年12月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘  
重村行政労務管理事務所  
ご連絡先：〒235-0021  
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102  
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466  
E-mail：[shigemura.office@etude.ocn.ne.jp](mailto:shigemura.office@etude.ocn.ne.jp)

## 混迷する世界情勢(東欧、中東、アジアは?)

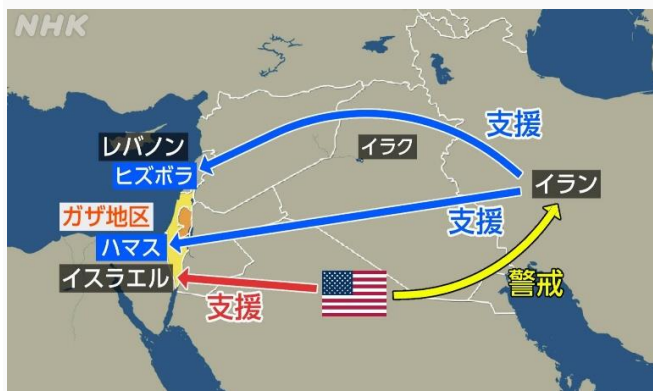
### ●一時戦闘状態を停止したイスラエルとハマスは

ハマスのイスラエル大規模襲撃からまもなく2か月、アメリカとイランの対立の構図も強まっている。11月、パレスチナのヨルダン川西岸に続いて、アメリカのブリンケン国務長官が訪れたのはイラクでした。ブリンケン長官はこれに先立ち、ヨルダンで、エジプトの外相などと会談していて、イラク訪問もアラブ諸国との協議の一環とも見える。

しかし、それだけでしょうか。わざわざ事前の予告もなしに、突然、イラクを訪れるにはそれなりの意味があると見るのが自然。

それは、イランを特に強く意識した訪問だ。

・アメリカとイランの間の対立も、イランの後ろにはロシアの影も見え隠れしている。



地中海に面したガザ地区で続くイスラエル軍とハマスの戦闘では、地理的には離れているものの、イランの影響が見え隠れしていた。イランはハマスを支援しているほか、ハマ스에呼応するようにイスラエルの北部に向けて断続的に攻撃しているレバノンに拠点があるシーア派組織ヒズボラも支援している。

11月24日からイスラエルとハマスの間で4日間の停戦と捕虜の交換が開始されたが、更に2日間の延長を合意したが、今後の動静は予断を許さない。再々延長はあるのだろうか。

### ●長期化するウクライナ情勢



ウクライナ軍は今年6月上旬から大規模な反転攻勢を開始。南部のザポリージャ州や東部のドネツク州などで一部の集落を奪還したと強調している。

これに対してロシア軍は新たな部隊を派遣し、東部ドネツク州で大規模な作戦を展開するなど、激しい攻防が続いている。

こうした中、11月イギリスの雑誌エコノミストにウクライナ軍のザルジニー総司令官が、「現代の陣地戦と勝利のカギ」という論文を発表し、ウクライナの内外で大きな波紋を呼んだ。ザルジニー総司令官はゼレンスキー大統領とともにロシアの侵略への防衛戦争を指揮し、国民の信頼の厚い司令官である。



この中で、ザルジニー総司令官は、戦線はお互いに塹壕に立て籠もり、地雷原を敷設する陣地戦に移り、戦線が膠着していることを認めた上で、戦争が長期化することは、より多くの人的、物的な資源を持つロシアに有利となると危機感を示した。

インタビュー記事の中では、NATOの教科書通りには前進できなかったことや、プーチン大統領が15万人の戦死者を出しても戦争を止めようとしなかったことは誤算だったなど率直に吐露している。



そして強調しているのは、現代の陣地戦において、どちらの国であろうと防御側が攻撃側よりも遥かに有利だという点だ。つまり防御側はドローンなどで攻撃側の動きを察知し、精密誘導爆弾などで攻撃側を撃破できるとしている。逆に言えば塹壕や地雷原での防御を突破するのは難しいということだ。またNATOの最新の兵器についてもロシア軍も時間が経つと対応方法を身につけて優位性が失われると指摘している。

ウクライナ側にもロシア側にもこう着状態の打破は難しいということを率直に認めている。ザルジニー総司令官は、悲観論ではなく現実を直視した上で、膠着を打破するための航空優勢の確保や地雷原の除去などで新たな技術革新が必要だなどとしている。



今後、ウクライナにとって戦闘を継続するには、西側諸国の支援疲れ、パレス問題への世界の関心の移行等があり厳しい状態に置かれている。

ウクライナは、ロシアと同時期来年三月に大統領選挙が行われることになっていたが、戒厳令下では法的に選挙はできず選挙延期が既定路線だ。

ロシアのプーチン大統領は来年三月に大統領選挙を実施する予定である。

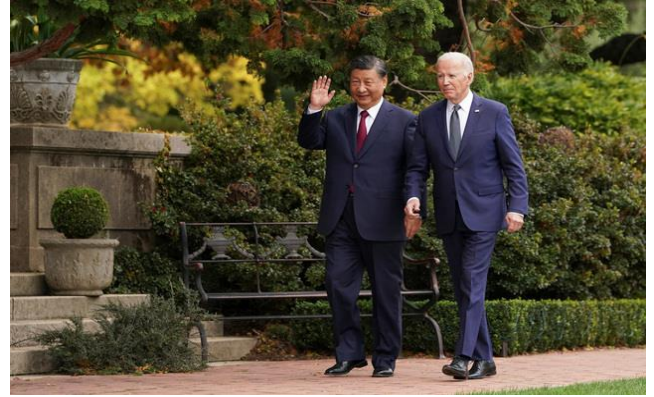
ロシアに対する厳しい経済制裁も一定の効果はあるものの、それだけでは、ロシアに戦争を断念させることはできない。エネルギー、食料を中心としたロシアの経済力、そして武器、弾薬、ミサイル製造など軍需産業の力を過小評価することはできない。

2度目の冬が訪れ、ウクライナとロシアの戦争は長期戦になろうとしている。「あなた方の武器で我々

の兵士がロシアと戦う」とゼレンスキー大統領はアメリカなど支援国に述べている。戦争が長期戦に入ろうとして、ウクライナ国民の犠牲も増える中、アメリカなど支援する側もウクライナに有利な状況で戦争を終結できるのか、新たな戦略が求められている。

ここしばらくは両陣営の我慢比べが続くだろう。

### ●台湾は米中関係で最も危険な問題、習氏が首脳会談で指摘＝米高官 …米中台の腹の探り合い



ウッドサイド(米カリフォルニア州)

中国の習近平国家主席は15日、バイデン米大統領との4時間に及ぶ会談で、台湾は米中関係で最大かつ最も危険な問題だと語った。米政府高官が記者団に明らかにした。習氏は台湾との平和的な統一を望んでいると述べた上で、武力を行使する可能性のある条件についても言及したという。また高官は、中国は台湾への大規模な侵攻を準備していないことを習氏が示そうとしたとも指摘。ただ、米国のアプローチは変わらないと述べた。高官によると、バイデン大統領は平和と安定を維持するという米国の長年の方針を明確に伝えた。それに対して「習氏は、平和は結構なことだが、ある時点で解決に向けて動く必要があると応じた」という。米中首脳会談は、アジア太平洋協力会議(APEC)首脳会議に合わせ、サンフランシスコ近郊で開催された。両首脳が対面で会談するのは約1年ぶり。

台湾外交部は、中国が台湾を攻撃するのかわかや、その時期について予想しようとしたことはないとし、自衛の強化や国際社会の支持獲得に尽力していると説明。報道官は台北で「国際社会が台湾海峡の平和と安定をいかに重視しているかわ、戦争を始めることの代償の大きさを中国に理解させ、無分別に行動させないようにすることが重要だと考えている」と述べた。その上で、台湾は挑発的な行為はせず、「軽率に進む」ようなこともしないが、圧力には屈しないと強調した。

それでも中国の空・海軍の威圧は続く。そのうえ北朝鮮は人工衛星で氣勢を挙げている。アジアも平穩ではない。